

3カ年計画 (2022～2024年度)

日本アルコール産業株式会社

3カ年計画の基本方針と施策

2/10

【基本方針】

「安心安全で低廉な安定供給を実現する」

【施 策】

I. 鹿島新系列建設を核とする生産能力増強

- サプライチェーンの中心である生産設備の強化

II. 日本一の原料調達力と製品出荷拠点の全国展開

- 急激な需要増にも対応できる原料調達能力の構築
- 不測の事態でも製品出荷を切らさない製品保有能力の強化
- 全国的な製品出荷施設との連携による確実なお届けの実現

III. 強靱な発酵サプライチェーンの構築

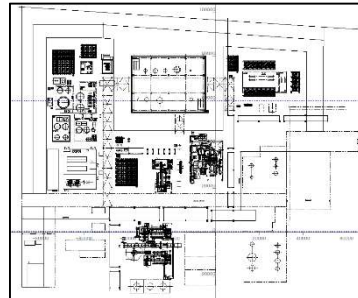
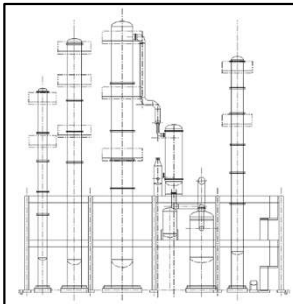
- 需要変化に柔軟に対応できる強靱なサプライチェーンの構築

Ⅰ.鹿島新系列建設を核とする生産能力増強

3/10

1. 鹿島新系列の建設

- 日産量：300KL
- 稼働予定：2024年4月
- 省エネルギー設備：圧縮式ヒートポンプ
- 社内体制：10名を超える専属のプロジェクトチームにて推進中
- 2024年4月の稼働へ向けて順調に進捗中



2. 鹿島99度の能力増強

- 脱水塔の一節を更新することで、生産能力を20KL/D増強
- 2021年9月に完成し、現在安定運転中



I. 鹿島新系列建設を核とする生産能力増強

4/10

3. 出水95度の能力増強

- 蒸留塔を更新することで、生産能力を20KL/D増強
- 2021年12月末に完成し、現在安定運転中



4. 能増後の供給力

- 瞬発的な生産能力は、95度、99度を合算して、年間400千KL程度まで対応可能となる。
- 99度生産能力は、3工場で年間100千KLを超える。

ア) 日本一の原料調達力の構築

1. 国内外の原料タンク容量の確保

- 国内外の原料タンク容量増大を図り、現状で13万KLを超えるタンクを保有、併せて数ヶ月分の常時在庫を前提とした運用も開始済み
- 2022年度には鹿島工場に12千KLの原料タンクが完成し、国内外トータルで、タンク容量は14万5千KLまで増強予定

	国内	韓国	合計	備 考
2020年度 (千KL)	38	70	108	
2021年度 (千KL)	38	95	133	ウルサンタンク25千KL追加賃借開始
2022年度 (千KL)	50	95	145	鹿島工場12千KLタンク完成予定



2. 柔軟な受け入れ・回送等

- ウルサンはタンクキャパの増強だけでなく、「JSTT」「UTK」の2社と契約し、ターミナルの分散化による柔軟な受入や回送を実現
- 鹿島工場の製品船出荷を、新バース（KTTバース）へ完全移行し、既存バースの原料受け入れ専用化を実現
- 国内外のタンクキャパ増強、ウルサンタンクターミナルの分散化、鹿島既存バースの原料受入専用化の取り組みにより、日本一の原料調達力を実現

II.日本一の原料調達力と製品出荷拠点の全国展開

6/10

イ) 製品在庫能力の強化と製品出荷拠点の全国展開

1. K T Tバースを活用した専用の製品船出荷施設及び製品タンク建設

- K T Tバースを活用し、専用の鹿島工場製品船出荷施設を建設
- 鹿島工場6,000KL（2022年度）、磐田工場980KL（2021年度）、出水工場3,200KL（2022年度）の製品タンクを建設
- グループ内拠点のタンクと併せ、製品在庫能力を約50千KLまで増強予定

製品タンク容量 (千KL)

	鹿島	磐田	出水	神戸	J.alco 計	グループ 拠点	計	備考
2020年度	13	6	14	0.5	34	6	40	
2021年度	13	7	14	0.5	35	6	41	磐田980KL
2022年度	19	7	17	0.5	44	6	50	鹿島6,000KL、出水3,200KL

2. 製品出荷拠点の全国展開

- 製品出荷拠点は、J.a l c oの6カ所に加え、アルコール販売の19カ所の出荷拠点と連携し、北は北海道から南は沖縄まで、全国津々浦々のお客様への安定供給を実現

出荷拠点	(Jalco)
	鹿島工場、磐田工場、出水工場、米ノ津作業所、水俣作業所、神戸基地、計6カ所
出荷拠点	(アルコール販売)
	札幌、仙台、新潟、富山、東京、船橋、川崎、静岡、名古屋、名古屋(CTT)、大阪、神戸、新神戸、広島、四国、福岡、門司、伊賀、沖縄、計19カ所
	合計25カ所

ア) 安心安全

原料から製品まで一貫してJ.alcoがおいたち管理その他の品質保証、国内最高水準のCO₂原単位

1. 品質保証

- J.alcoは、原料～工程～製品に至るまで、その品質を専門の部署と社員により分析し、厳しい品質管理を実施
- 品質保証は、グループ内の製品出荷拠点まで、J.alcoが責任をもって品質保証する体制を構築済
- 「おいたち管理システム」を通じて、原料受け入れから製品出荷に至るまでのトレーサビリティ情報をお客様へ提供可能
- 「おいたち管理システム」は、トレーサビリティ情報の提供だけでなく、緊急時の迅速な対応が可能
 - 例えば製品にトラブルが発生した場合等、即座に原料ロットを遡及し、お客様への報告、使用原料の特定、原因究明に速やかに取り組むことが可能
- 新たな取り組みとして、国際的な食品安全マネジメントシステムである「FSSC22000」を取得中、2021年度中には認証見込

Ⅲ.強靱な発酵サプライチェーンの構築

8/10

2. 国内最高水準のCO₂原単位

- 最新設備の設計・導入が計画されている鹿島工場新系列をメイン稼働させることで、鹿島工場はCO₂排出量を85%程度まで抑制の見込
- 鹿島新系列以外の全工場にも、最も省エネルギー効果の高い圧縮式ヒートポンプを導入済で、J.alcoの全工場は国内最高水準のCO₂原単位と推定、このことにより国内のCO₂総排出量の抑制に貢献可能

	鹿島	磐田	出水
省エネ設備	圧縮式ヒートポンプ		
設備概要	3工場とも燃料はガスで、省エネ設備は圧縮式ヒートポンプを導入		

- 遊休地を利用した太陽光発電の取り組み等についても、フィージビリティスタディを開始

Ⅲ.強靱な発酵サプライチェーンの構築

9/10

イ) 低廉

投資は全て自己資金で行い、お客様負担増を回避

- J.alcoは、安定供給の要としての役割を実現するため2019年度から総額で140億円もの投資を計画し実行中
- これらの投資は全て自己資金で賄い、償却費に関してもお客様への負担は、一切おかけしない方針

安定供給基盤の強化に関連する主な投資

項目	投資予算 (百万円)	概要	完成予定
鹿島工場95度・99度生産設備系列増強	9,000	日産量300KL/Dの95度及び99度新系列設備増設	2024年3月
鹿島工場原料・製品タンク新設	2,400	原料12,000KL、製品6,000KLタンクの増設	2022年10月
袖ヶ浦作業所タンク更新及び出荷設備整備	960	製品タンク3,200kKL*1基更新、3,200KL*2基補修整備	2022年3月
出水工場製品タンク新設	500	製品タンク3,200KL増設	2022年10月
磐田工場ヒートポンプ更新	499	圧縮式ヒートポンプの更新	2019年11月完成
鹿島工場99度生産設備能力増強	330	C塔のデボトルで20KL/D能増	2021年9月完成
出水工場蒸留塔能力増強	300	出水工場既設95度抽出塔更新で20KL/D能増	2021年12月完成
磐田工場製品タンク新設	240	製品タンク980KL増設	2022年3月
鹿島工場製品船出荷設備新設	161	隣接するKTTバースへ製品船出荷設備の新設	2019年12月完成
ウルサンタンク賃借		JSTTへ原料用タンク25,000KL追加賃借	2021年9月開始
合計	14,390		—

ウ) 安定供給

需要変化に柔軟に対応できる原料調達から製造、供給拠点の 全国展開

- 2019年度から、J.alcoとして総額140億円もの投資に取り組み中
- 全ての投資が稼働する2024年度には、サプライチェーン機能の強化が完了
- グループにおいて、このサプライチェーン機能を最適稼働させるための、販売、調達、製造、輸送の各担当者により構成される発酵SCM会議を開催
 - SCM会議にて、販売情報に基づく生産計画立案、韓国原料受け入れ、国内への原料回送、原料在庫、各工場の稼働、製品出荷情報に基づく製品出荷拠点までの輸送、製品在庫までがコントロールされる
- 販売情報に基づく各種情報から、保有する設備の最適稼働を導き出し、トータルでコントロールすることで、急激な需要変化にも柔軟に対応可能
- この取り組みを通じて、国内津々浦々のお客様へ間違いなくお届けできる強靱な発酵サプライチェーンを実現
- 2020年度のコロナ禍においても、SCM会議にて全体をコントロールし、全国のお客様のご要望に全力で対応